

# うつくしま ふくしま 土地改良だより

No.508

平成20年10月1日



## 目 次

●福島県土地連50周年記念式典開催	2
●全土連創立50周年記念式典開催	13
●平成21年度農村振興局予算概算要求の概要について	14
●疏水サミット in 北海道2008	18
●全国農地集団化協議会第56回通常総会開催	19
●水土保全強化対策事業 管理指導事業専門指導員打合せ会開催	20
●平成20年度農業農村整備事業講演会 並びに懇話会（会津支部）	21
●東北農業農村整備推進協議会 平成20年度会員研修会を実施	21
●第6回治右衛門の壇「あじさい祭り」を開催	22
●福島県農地・水・環境保全向上対策地域協議会 平成20年度第2回総会開催	23
●福島県土地改良団体職員連絡協議会 永年勤続表彰及び会員研修会を開催	24
●「農地・水・環境保全の水質モニタリング調査について」	25
●農地情報共有化に係る方部別説明会開催	26
●農業用水水源地域保全対策事業の取り組みについて 「第3回農業総合センターまつり」への出展	27
●東北農業農村整備推進協議会要請活動を実施	28
●福島県土地改良団体職員連絡協議会県外視察研修を実施	29
●水土里ネット福島に対するアンケート調査結果	30
●土地連日誌	33



おかげさまで  
みなさまとともに50年  
**水土里ネット福島**

## 福島県土地連50周年記念式典開催

本会の設立50周年記念式典は7月14日(月)午後1時30分から福島市のウェディングエルティで行われました。

関係者253名の出席を賜り、飯野陽一郎会長が式辞を述べ、佐藤雄平知事や遠藤忠一県議会議長、本県の市町村を代表して白井英男喜多方市長、東北農政局宮坂亘局長、国会議員を代表して坂本剛二衆議院議員の方々よりお祝いの言葉をいただきました。

席上、本会の運営や土地改良事業に力を尽くされた個人7名、8団体の方々に感謝状及び記念品が贈呈されました。

また、水資源機構の太田信介副理事長が「21世紀の農業と農村」の演題で記念講演を行いました。

### 次 第

#### I 記念式典 (13時30分～)

- (1) 開式の辞
- (2) 会長式辞
- (3) 感謝状贈呈
- (4) 来賓祝辞
- (5) 来賓紹介
- (6) 記念講演

「21世紀の農業と農村」

講師 独立行政法人水資源機構

副理事長 太田 信介 氏

- (7) 万歳三唱
- (8) 閉式の辞

#### II 祝賀会 (15時45分～)



オープニングビデオ



第一部 記念式典開式の辞



ロビーで歓談する様子



若松副会長

## 式　　辞

福島県土地連会長 飯　野　陽一郎

本日、福島県土地改良事業団体連合会設立50周年記念式典を挙行致しましたところ、公務ご多忙の中、福島県知事 佐藤雄平様、福島県議会議長 遠藤忠一様、東北農政局長 宮坂 亘様はじめ、多数の御来賓のご臨席を賜りまして、厚く御礼申し上げます。

また、会員各位におかれましては、時節柄お忙しい中、ご出席を賜り、誠にありがとうございます。

さて、顧みますと、本会の前身は今から80年前の昭和3年2月に発足した「福島県耕地協会」であります。同協会は、昭和24年に制定された「土地改良法」に即応して、昭和27年6月に「福島県土地改良協会」となりました。

さらにその後の法律改正により、土地改良事業を行うものの協同組織として昭和33年3月23日に、福島県庁正庁で本会の創立総会が開催され、同年6月19日に、土地改良法に基づく公益法人として農林大臣の設立認可を得ました。

爾来50年、本会は半世紀にわたって福島県の土地改良事業の推進に携わって参りましたが、戦後の食糧増産のための緊急開拓から米の生産調整、高度成長期やオイルショックなど社会的、経済的にも激動の時代を切り抜け、ここに設立50周年を迎えることができましたことは、これひとえに、この間、土地改良事業に関わられた先人のご労苦、会員各位のご支援とご協力、並びに国、県はじめ関係機関・団体の皆様からの暖かいご指導ご鞭撻の賜と、心から感謝を申し上げます。

今日、福島県内の水田は土地改良事業によって約7割が近代的なほ場となり、また、農業水利施設は、ダムや頭首工等約6,600施設、そして農業の命脈とも言える基幹的な用排水路の延長は約千kmにも及んでおります。

そして、このような農地や水利施設の整備が今日の福島県の農業生産の基盤となり、また、農村環境の形成や国土保全の上でも大きな役割を果たしていることを考えたとき、本会が、福島県の農業・農村の振興・発展にいささかなりとも寄与できたことを大きな誇りとするものであります。

一方、近年の農業農村を取り巻く環境は、農村の過疎化、高齢化、担い手の不足、耕作放棄地の増加、米価の下落など様々な課題が山積しておりますが、とりわけ今日、急速に国際的な議論の対象となつた食糧問題は、食糧自給率39%という我が国にとっては極めて重要な課題であります。

このような状況を見たとき、改めて農業・農村の果たしている今日的役割について国民的な理解を広めるとともに、農業農村の振興・発展を図っていくための取り組みを充実することが益々重要になっているものと強く認識しております。

このため、当会といたしましては、これまでの半世紀にわたる歴史の上に立って、今後とも福島県の農業・農村の振興・発展に寄与できるよう、役職員一体となり、一層の努力をして参る決意でありますので、皆様方には今後ともさらなるご指導・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

また、本日は、50年前に、当時「福島県土地改良協会」の幹部職員として本会の設立にご尽力されました佐久間和三郎様はじめ、会長、副会長、専務理事として長年にわたり会の運営にご貢献いただいた皆様、並びに、当会の各種事業の実施に当たり、長年、技術協力等をいただいた皆様に対し感謝状を贈呈し、深甚なる敬意と感謝の意を表したいと存じます。

結びに、本日ご出席頂きました皆様方のご健勝とご発展を心よりお祈り致しまして、式辞といたします。



飯野会長（式辞）

(4) 土地改良だより

## 福島県土地改良事業団体連合会 設立50周年記念表彰

### 受賞者名簿 (敬称略)

#### 1. 個人

##### (1) 特別功労者

氏名	職歴紹介
佐久間 和三郎	土地改良協会事務長 昭和27年12月～昭和33年3月 土地連参事 昭和33年4月～昭和39年3月

##### (2) 元会長・副会長・専務理事

氏名	職歴紹介
佐藤 栄佐久	会長 平成7年4月～平成18年10月
山内辰夫	副会長 昭和56年7月～平成5年6月
黒澤 清	副会長 平成8年4月～平成14年3月
原瀬善道	専務理事 昭和53年7月～昭和62年3月
佐藤芳久	専務理事 平成3年4月～平成8年3月 (常務理事) 昭和62年4月～平成3年3月
高橋豊吉	専務理事 平成13年4月～平成17年3月

#### 2. 企業・団体

##### 団体名(代表者名)

(社)福島県土地改良建設協会 (会長 庄司 公正)
福島県土地改良専門技術者会 (会長 伊藤 兼道)
福島県農業土木技術研究会 (会長 坂本 宏)
福島県土地改良団体職員連絡協議会 (会長 石神 正雄)
土地連OB会 (会長 佐藤 武男)
財東北電気保安協会福島事業本部 (事業本部長 佐藤 秀三)
(有)機電システム (代表取締役 菅生 敏郎)
福島県環境整備協同組合連合会 (会長 佐藤 博)



祝 設立50周年記念式典 福島県土地改良事業団体連合会 (平成20年7月14日)

I  
個人の部



壇上へ進む佐久間氏（御歳105歳）



佐久間和三郎氏（元参事）



黒澤清氏（元副会長）



原瀬善道氏（元専務理事）



佐藤芳久氏（元専務理事）



高橋豊吉氏（元専務理事）

II  
企業・団体の部



(社)福島県土地改良建設協会（会長 庄司公正氏）



福島県土地改良専門技術者会（会長 伊藤兼道氏）



福島県農業土木技術研究会（会長 坂本宏氏）



福島県土地改良団体職員連絡協議会（会長 石神正雄氏）

## (6) 土地改良だより

### 企業・団体の部 II



## 受章者代表謝辞

原瀬 善道氏



原瀬善道氏（受章者代表謝辞）

原瀬でございます。

甚だ僭越ではございますが受賞者を代表して、御礼のことばを申し述べさせていただきます。

本日、土地改良事業団体連合会設立50周年記念の式典にあたりまして、私達、受賞の栄誉に浴しましてこの上もございません。厚く御礼申し上げる次第でございます。

顧みますと、本会が土地改良協会から法定団体として、福島県土地改良事業団体連合会に衣替えしたのは、県が出先機関として13の土地改良事務所を7つの農地事務所に大機構改革を果たし、その3年後でございました。

爾来50年、この間、土地改良の人間として行動を共にして参りまして、思い出深いものがございます。長くもあり、また短くも感じております。

私は本県土地連が設立20周年記念に、ちょうどその節目の年に本会に参りました。

食料増産、あるいは農業の合理化、近代化、時には農村農業の振興、時代時代の要請に対応し土地基盤整備を機軸に会員皆様方と共に働いて参りました。

特に本県土地連は、全国でも有数の活動する団体であり、その一員であったことを今以て誇りに思っております。

す。

私達は、本日の受賞を契機に今後におきましても、土地連周辺の人間として本県の農業農村の振興発展に及ばずながらかかわりを持っていきたいと考えております。

最後になりましたが、本会におきましても飯野会長を先頭に一致結束、更なる発展を期され、そしてまた、会員皆様方のご健勝を心から御祈念申し上げまして、粗辞ではございますが御礼のことばといたします。

本日は誠にありがとうございます。

## 祝　　辞

福島県知事 佐　藤　雄　平

福島県土地改良事業団体連合会の設立50周年の記念式典がこのように盛大に開催されますことを心よりお慶び申し上げます。

皆さんには、戦後日本の農業近代化を牽引してきた土地改良事業の推進を通して、本県農業・農村の振興、さらには地域社会の発展に多大な御尽力をいただき、厚く御礼を申し上げます。

また、長年にわたり土地改良事業の推進に努められ、本日、感謝状を受けられました皆さんに、心からお祝いを申し上げます。

貴連合会が設立された昭和33年以来、皆さんたゆまぬ御努力もあって、福島県の農業生産基盤整備は順調に進み、この間、農業経営の規模拡大や集落排水施設の普及等により、本県農業の生産性や農村の居住環境が急速に改善するなど、農家経営はもとより広く県民生活の向上が図られました。

このような環境があつてこそ、福島県の安全・安心でおいしい農産物づくりが盛んになってまいつたものと考えており、皆さんに深く敬意を表します。

さて、先週開催された北海道洞爺湖サミットでも、食料問題が世界の重要課題として大きくクローズアップされました。

我が国としては、食料自給率を向上させ、世界の食料需給バランスを安定させる努力が必要であります。

国内農業の生産力を高め、安全安心な食糧を供給するためにも、農地・水管理施設の維持・保全や循環型農村社会の構築に向けた貴連合会の取組みは、今後ますます重要なものとなってまいります。

あわせて県といたしましても、農産物の販路拡大にこれまで以上に積極的に取り組むことにより、本県農業・農村の振興と農家経営の安定を図ってまいりたいと考えております。

県では、この4月から新たな県民運動を立ち上げました。

農業の営みから生まれた「結い」のような相互扶助の文化や、会津藩の「什の掟」などの精神文化を始めとした、福島ならではの地域特性や温かな県民性に磨きをかけて将来に引き継ぐことにより、一人一人が幸せを実感できる、心のふるさと福島県を、県民の皆さんとともに築いてまいり考えでありますので、皆さんのお力添えをお願いいたします。

結びに、福島県土地改良事業団体連合会の更なる発展と、御参会の皆さんの御健勝、御活躍を心からお祈り申し上げ、お祝いの言葉といたします。



佐藤雄平福島県知事（祝辞）

(8) 土地改良だより



遠藤忠一福島県議会議長（祝辞）



白井英男喜多方市長（祝辞）



宮坂亘東北農政局長（祝辞）



坂本剛二衆議院議員（祝辞）



ご来賓の皆様



本会役員



記念式典の様子

## 太田信介氏が記念講演

元農林水産省農村振興局長で、独立行政法人水資源機構副理事長の太田信介氏を招いて、「21世紀の農業と農村」～福島の水土里を未来に～と題した記念講演を開催しました。

アメリカの地下水資源オガララ帯水層の地下水枯渇や中国の水利用の将来予測資料、IPCC（気候変動に関する政府間パネル）の報告などを基に、世界の水事情と気候変動がもたらす異常多雨・小雨などの影響を示した上で、生態系の保全や景観の形成・維持といった農業農村の多面的機能と、全国各地で展開されている環境に配慮した維持管理活動の重要性を説明された。

農村地域での農村の振興と農業の持続的発展があって、はじめて全国の一般住民が享受する食糧の安定供給や多面的機能の効果が発揮される。国民共通の財産である農村を農業者だけでなく色々な人を巻き込んで次の世代に引き継いでいくてほしい。等お話をされました。



記念講演の様子



太田信介氏

(10) 土地改良だより



万歳三唱を行う内藤雅亀氏  
(三和土地改良区理事長)



万歳三唱の様子

閉式の辞



植田副会長

第二部 観賀会の様子



ごあいさつをする飯野会長



乾杯の御発声をする添田増太郎氏  
(福島県農業共済組合連合会会長理事)



祝賀会で歓談する様子



中締めのあいさつをする歌川理事

(12) 土地改良だより



お見送りの様子



お見送りの様子



7月13日付け新聞広告記事



新聞広告記事贈呈コーナー



正面受付



会員受付



受付の様子



事務局打合せ



祝電掲示板



記念誌表紙  
「福島県土地連50年のあゆみ」

# 全土連創立50周年記念式典開催

全土連の創立50周年記念式典は9月3日(水)、午後2時から東京都の虎ノ門パストラルにおいて、全土連の関係者並びに各都道府県土地連の関係者ら大勢が出席し、盛大に式典が開催されました。

式典では、野中広務会長が式辞を述べ、佐藤昭郎参議院議員、太田誠一農林水産大臣よりお祝いの言葉をいただきました。

席上では、永年、土地連の運営にご尽力された役員並びに職員の方々に農林水産大臣感謝状29名、全国土地改良事業団体連合会会長表彰（役員の部）51名、（職員の部）288名に対し、賞状及び記念品の授与が行われました。

また、記念講演では野中広務会長が「戦争世代からの遺言」と題してご講演されました。



式辞を述べられる野中会長



式典参加者

## 本県受賞者の紹介

### 農林水産大臣感謝状

斎藤 良道氏（白河市土地改良区理事長）



中央が斎藤氏

### 全土連会長表彰【役員の部】

津金 要雄氏（猪苗代町長：元本会理事）

根本 良一氏（元矢祭町長：元本会理事）

国井 常夫氏（元大信村長：元本会理事）



津金 要雄氏（猪苗代町長）

### 全土連会長表彰【職員の部】

佐藤 善文氏（本会職員：環境整備部長）

小林 剛氏（本会職員：総務企画部長）

佐藤 武男氏（本会元職員：元技術部長）

菅生 直氏（本会元職員：元技術部長）

石川 良男氏（本会元職員：元換地部長）

郷 紘一氏（本会元職員：元参事）

尾形 次男氏（本会元職員：元管理指導部長）

佐藤 文雄氏（本会元職員：元基盤整備部長）

丹治 勇氏（本会元職員：元管理指導部長）

## 平成21年度農村振興局予算概算要求の概要について

9月4日、全国都市会館（東京都千代田区平河町）において都道府県水土里ネット事務責任者会議が開催され、21年度予算概算要求の内容について農村振興局から説明を受けました。

平成21年度、農業農村整備事業の概算要求額は729,996百万円（対前年度比109.3%）です。

なお、詳しくは農林水産省HP、農村振興（予算、決算、財務書類等・平成21年度農林水産予算概算要求の概要）をご覧下さい。

(単位：百万円)

事 項	平成21年度 要 望 額
<b>農業農村整備事業</b>	<b>729,996</b>
<b>[農業生産基盤整備・保全]</b>	<b>626,813</b>
<b>用排水施設の整備</b>	<b>252,801</b>
・水利区域内農地集積促進整備事業（新規）	300
・地域農業水利施設ストックマネジメント事業（新規）	2,000
<b>農地の整備</b>	<b>172,273</b>
・農地有効活用緊急基盤整備事業（新規）	2,000
・耕作放棄地解消・発生防止基盤整備事業（拡充）	1,100
・畜産担い手育成総合整備事業（拡充）	12,871
<b>農道の整備</b>	<b>32,939</b>
<b>農地の防災保全</b>	<b>108,467</b>
・地域ため池総合整備事業（新規）	300
<b>その他</b>	<b>60,333</b>
・炭素貯留関連基盤整備実験事業（新規）	500
・水土里環境を守ろう特別支援事業（新規）	200
・水田環境向上基盤整備支援事業（新規）	50
<b>[農村整備]</b>	<b>103,183</b>
<b>農業集落排水施設の整備</b>	<b>18,341</b>
<b>農村の総合的整備</b>	<b>44,398</b>
・地域用水環境整備事業（拡充）	2,838
<b>中山間地域の整備</b>	<b>38,173</b>
・農地環境整備事業（拡充）	1,378
<b>その他</b>	<b>2,271</b>

## 平成21年度農林水産予算概算要求の重点事項（抜粋）

**I 國際的な食料事情を踏まえた食料安全保障の確立****1. 国内における食料供給力の強化～食料自給率向上に向けた特別対策～****(1) 水田等の有効活用による食料自給率向上戦略作物の増産対策**

・水田等有効活用自給力強化向上対策	223,260 (147,669)百万円
・水田等有効活用促進対策	52,591 (0)百万円
・産地確立交付金	147,669 (147,669)百万円
・耕作放棄地等再生利用緊急対策交付金	23,000 (0)百万円
・農地有効活用緊急基盤整備事業〈公共〉	2,000 (0)百万円

**(2) 米粉・飼料用米等の飛躍的利用拡大に向けた供給体制の整備**

・農山漁村活性化プロジェクト支援交付金 (新規需要米生産製造連携関連施設整備事業)	4,030 (0)百万円
・水田等有効活用促進交付金	40,419 (0)百万円
・多収性稻種子の安定供給支援事業	58 (0)百万円
・低コストで質の良い加工・業務用農産物の安定供給技術の開発 (米粉利用を加速化する基盤技術の開発)	134 (14)百万円

**(3) 飼料自給率向上対策**

・酪農飼料基盤拡大推進事業	所要額 7,062 (5,446)百万円
・地域資源活用型エコフィード増産推進事業	300 (0)百万円
・国産粗飼料増産対策事業	2,391 (1,822)百万円
・耕畜連携水田活用対策事業	5,404 (5,404)百万円
・畜産担い手育成総合整備事業〈公共〉	12,871 (11,058)百万円

**(4) 国産野菜・果実等の利用拡大対策**

・国産原材料供給力強化対策	8,025 (0)百万円
・水産加工原料確保緊急対策事業	102 (0)百万円
・実需者連携型産地基盤整備推進対策	
・農山漁村活性化プロジェクト支援交付金 (産地振興追加補完整備)	500 (0)百万円
・戦略的産地振興支援事業	300 (200)百万円

**(5) 耕作放棄地解消対策**

・耕作放棄地等再生利用緊急対策交付金	23,000 (0)百万円※再掲
・農地環境整備事業〈公共〉	1,378 (1,193)百万円
・耕作放棄地解消・発生防止基盤整備事業〈公共〉	1,100 (1,000)百万円

**(6) 食料自給率向上、食品廃棄物の発生抑制等に向けた情報発信**

・国産食料品等ポイント活動モデル実証事業	300 (0)百万円
・食品廃棄物発生抑制推進事業	48 (0)百万円
・食品産業表示推進事業	16 (0)百万円
・食料自給率戦略広報推進事業	1,700 (1,700)百万円

## 2. 世界の食料事情に的確に対応した戦略的取組

### (1) 食料事情に関する情報の把握・提供体制の強化

- ・世界食料需給動向等総合調査・分析関係費 208 (117)百万円

### (2) 国際協力等を通じた世界の食料問題解決への貢献

- ・アフリカ内陸低湿地における持続的稻作技術実証・普及事業 64 (0)百万円
- ・途上国の生産能力向上等のための南南協力促進事業 163 (136)百万円

### (3) 我が国農林水産物・食品の輸出の促進

- ・農林水産物等輸出ステップアップ推進事業 194 (0)百万円
- ・農林水産物等輸出促進対策 876 (600)百万円

## 3. 国内農業の体质強化による食料供給力の確保

### (1) 意欲と能力のある担い手の育成

- ・生産条件不利補正対策〈特会〉 154,906 (153,153)百万円
- ・収入減少影響緩和対策〈特会〉 75,576 (55,517)百万円
- ・農業法人経営発展支援事業 230 (0)百万円
- ・担い手アクションサポート事業 3,175 (2,250)百万円
- ・担い手経営展開支援リース事業 1,072 (697)百万円
- ・地域担い手経営基盤強化総合対策実験事業 9,283 (6,480)百万円

### (2) 食料の生産基盤である農地の確保・有効利用の促進

- ・農地確保・利用支援事業〈特会〉 8,667 (0)百万円
- ・農地確保・利用推進体制支援事業〈特会〉 815 (0)百万円
- ・水土里情報利活用促進事業 10,699 (9,699)百万円
- ・農地情報共有化支援事業 1,140 (868)百万円
- ・農地情報提供支援事業 27 (0)百万円

### (3) 食料供給コストの縮減

- ・農業支援ニュービジネス創出推進事業 424 (0)百万円

### (4) 農業用水の安定的供給の確保

- ・水利区域内農地集積促進整備事業〈公共〉 300 (0)百万円
- ・地域農業水利施設ストックマネジメント事業〈公共〉 2,000 (0)百万円

## 4. 農林水産分野における原油・肥料・飼料価格高騰対策

- ・強い農業づくり交付金のうち原油高騰対策特別枠 2,702 (0)百万円
- ・省石油型施設園芸技術導入推進事業 1,011 (375)百万円
- ・省エネ技術・機械等普及推進事業 168 (0)百万円
- ・肥料・燃油高騰対応緊急実証事業 1,070 (0)百万円
- ・施肥体系緊急転換対策 1,181 (0)百万円
- ・配合飼料価格安定対策事業 11,000 (6,000)百万円

・省エネ技術・施肥低減体系緊急導入促進事業	所要額 833 百万円 【既存基金活用】
・地域内資源を循環利用する省資源型農業確立のための研究開発	300 (0)百万円
・森林・林業・木材産業づくり交付金	12,653 (9,692)百万円の内数
・水産業燃油高騰緊急対策事業	22,000 (0)百万円

## 5. 食の安全・消費者の信頼確保と食生活の充実を図る施策の展開

### (1) 食の安全と消費者の信頼確保に向けた取組の充実

・食品安全確保調査・試験事業	1,134 (961)百万円
・食への信頼向上活動促進事業	163 (151)百万円
・食品産業H A C C P 等普及促進事業	200 (150)百万円

### (2) 食と農のつながりの深化に向けた取組

・国産食料品等ポイント活動モデル実証事業	300 (0)百万円※再掲
・地産地消モデルタウン事業	450 (321)百万円
・地産地消推進活動支援事業	24 (13)百万円

## 6. 先端技術や知的財産を活用した農林水産業の潜在的な力の発揮

### (1) イノベーションを先導する技術開発の加速化

・生物の光応答メカニズムの解明と高度利用技術の開発	500 (0)百万円
・地域内資源を循環利用する省資源型農業確立のための研究開発	300 (0)百万円※再掲
・低成本で質の良い加工・業務用農産物の安定供給技術の開発 (米粉利用を加速化する基盤技術の開発)	134 (14)百万円※再掲

### (2) 知的財産の戦略的な創造・保護・活用

・農林水産知的財産戦略総合推進事業	80 (57)百万円
・和牛精液等流通管理体制構築推進事業	140 (82)百万円

## 疏水サミット in 北海道2008

去る6月4日・5日にかけて北海道札幌市（ロイトン札幌：ロイトンホール）で疏水サミットin北海道2008が開催されました。『疏水とは、灌漑（かんがい）などのために、人が土地を切り開いてつくった水の流れ。厳しくも豊かな自然に囲まれたこの北の大地に入々が集い、水土の資源やそれを育む森林などの地域環境資源への理解を深め、豊かな農地・農村を次の世代に引き継いでいくため』をスローガンに掲げ、全国から多数の参加者を集め盛大に行われました。

また、北海道大学大学院農学研究院教授長澤徹明氏が「後世への最大遺物、水土里」と題した基調講演を行い、水土里を将来に残すための努力する姿を後世に残していくことが最大の遺物である等、お話しされました。

次に、話題提供として栗山町ハサンベツ里山計画実行委員会事務局長高橋慎氏の「童謡のみえる里山づくり～水と生きもののつながり～」、北海道開発協会開発調査総合研究所主任研究員草刈健氏の「里の山辺にある『あっち』と『こっち』」、作家・FMアップル「北の食物研究所」パーソナリティ森久美子氏の「土と水と食卓」、北海道農業近代化技術研究センター農業農村環境研究所長野本健氏の「水土里と農地・農村の景観」のお話しがありました。

最後に北海道大学名誉教授農村空間研究所長梅田安治氏をコーディネーターに迎え基調講演、話題提供者による意見交換が行われ、バイオエコ燃料や中国・発展途上国の食料問題から、日本農業は追い風である、今こそ国民に日本の農業を説明すべきである等の意見が出されました。



基調講演  
北海道大学 長沢教授



パネルディスカッション

# 全国農地集団化協議会第56回通常総会開催

全国農地集団化協議会は、6月10日午後1時より東京都千代田区霞ヶ関の法曹会館において、全国の会員等66名が出席して、第56回通常総会と平成19年度農地集団化協議会永年勤続者及び農地集団化優良地区の表彰式が行われました。

総会は、太田豊秋会長の挨拶、来賓として農林水産省農村振興局土地改良企画課大角亨課長の挨拶の後、太田豊秋会長を議長として平成19年度事業報告・収支決算の承認について、平成20年度事業計画・収支予算設定について、平成20年度賦課金の金額及び徴収の時期についてを原案どおり可決承認されました。

続いて挙行された永年勤続者表彰式では、農地集団化事業の推進等に貢献された17名の方に太田会長から表彰状が伝達され、本会では増井みどり主任主査が受賞しました。

総会終了後には、農林水産省経営局構造改善課農地流動化調査官松下哲博氏から『最近の農地制度をめぐる情勢について』と題し講演がありました。



前列右端が増井みどり主任主査

## 「福島県土地連50年のあゆみ」の訂正について

関係各位に対し大変ご迷惑をおかけいたしました。編集部一同お詫び申し上げます。

頁	位 置	誤	正
9頁	下段中央	平成13年4月1日～平成16年3月31日	平成13年4月1日～平成 <b>17</b> 年3月31日
84頁	中央5行目	(元技監：平成18年3月退職)	(元技監：平成 <b>19</b> 年3月退職)
112頁	上段写真	(H元年11月3日建立の記念碑)	削 除
118頁	4行目	所在 相馬郡新地町谷地小屋地内	所在 相馬郡新地町 <b>地内</b>
139頁	写真紹介	武田耕太郎氏	武田 <b>邦</b> 太郎氏
141頁	右段下から9行目	各出資金の20ないし25%	各出資金の20ないし25倍
142頁	左段上から12行目	要請を受け渡したことも記憶に残る。	要請を受け、 <b>渡台</b> したことも記憶に残る。
149頁	中央13行目	福島県農林水産部 元総括参事	福島県農林水産部 参事(兼) 農村計画グループ参事

# 水土保全強化対策事業 管理指導事業専門指導員打合せ会開催

6月13日、本会3階研修室において、福島県水土保全強化対策事業専門指導員打合せ会を開催し、土地改良施設の定期診断指導は110施設を7月から8月にかけて実施することで承認され、計画通り定期診断は完了しました。

なお、施設管理システムにおける二次診断は各方部の施設管理方部協議会で決定された施設の要請診断指導で約70施設を計画しています。

また、平成20年度土地改良施設維持管理適正化事業は、17団体20施設134,300千円の補修整備を報告し承認されました。

土地改良施設診断対象施設数は下記のとおりです。

## (1) 定期診断施設数

施設名 管内名	ダム	頭首工	機場排水場	樋水門	ため池	水路	計	団体別		
								市町村	土改区	計
県北	2	4	6				12	2	4	6
県中	3	7	7		5		22	5	6	11
県南	2	2	7		2		13	2	4	6
会津	1	10	15		4		30	3	10	13
南会津			2				2	2		2
相双	3	2	5	1	13		24	4	7	11
いわき		3	1	1	2		7		5	5
計	11	28	43	2	26		110	18	36	54

## (2) 要請診断施設数

施設名 管内名	ダム	頭首工	機場排水場	樋水門	ため池	水路	計	団体別		
								市町村	土改区	計
県北	2	1	1		1	5	10	2	5	7
県中	1	7			16		24	7	2	9
県南		1			1		2		2	2
会津		3	2		9	6	20	5	3	8
南会津							0			0
相双			5	1			6	1	1	2
いわき					8		8	1		1
計	3	12	8	1	35	11	70	16	13	29

## 平成20年度農業農村整備事業講演会 並びに懇話会（会津支部）

6月13日午後3時より会津若松市ルネッサンス中の島において、会津支部管内の各市町村・土地改良区役職員83名の参加のもと、「平成20年度農業農村整備事業講演会並びに懇話会」を開催しました。

講演は始めに福島県会津農林事務所長、宍戸多加志氏より「これから農業政策を考える」と題し、食料・農業を巡る状況を国際的な枠組みと国内の農業経営者、消費者のそれぞれの食料事情等の課題・問題を提起され、これからの会津の農業振興にどのように取り組むかについてお話をいただきました。

次に、福島県農林水産部技監、茂木功一氏より「混迷する農業情勢の中で土地改良区が果たす役割」と題し、福島県農林水産業の全国における位置、農業産出額の推移・価格、専業・兼業別農家数の推移、土地改良区の果たす役割と現状等、農業政策の展望と会津管内における農業農村整備事業の現状と今後の課題についてお話をいただきました。

続いて、懇話会は別会場に移動し講師・参加者全員が出席のもと、二名の講師を中心にそれぞれの職域の中での取り組みや問題について、活発な意見交換を行いました。

## 東北農業農村整備推進協議会 平成20年度会員研修会を実施

東北農業農村整備推進協議会主催の研修会は、6月17日郡山市熱海町（ホテル華の湯）において、東北各県の県、市町村、土地改良区、県土地連職員69名が出席して行われました。

研修は、農業水利施設の有効活用と適切な保全に向けてをテーマに、東北農政局整備部農地整備課長、江間敏介氏より「農業水利施設の維持管理について」、水土里ネット福島環境整備部次長、坂内隆芳氏より「地域住民等と連携した施設管理の必要性及び施設の補修工法について」、それぞれ講演をいただきました。

翌日は、会津大川土地改良区の会津大川用水、戸ノ口堰土地改良区の飯盛山弁天洞窟を視察しました。



(現地視察先)  
会津大川用水



(現地視察先)  
飯盛山弁天洞窟

## 第6回 治右衛門の堰「あじさい祭り」を開催 【水土里ネット愛谷堰】

去る7月6日(日)、愛谷江筋の保全と水路敷の緑化促進を目的に地域住民参画型「あじさいロード」作りを進めることを目的とした第6回治右衛門の堰「あじさい祭り」がいわき市立夏井小学校をメイン会場に子供から大人まで650名にも及ぶ大イベントを開催しました。

事務局より会場案内説明があった後、参加者はアジサイ散歩道ウォークへ。水路敷にあじさいを植裁し、約1kmの「あじさいロード」を和気藹々と歩く姿がみられました。



(水路を使用したニジマスつかみ取り)



木工工作

トマト早食い競争

ネギ早食い競争

景品が当たる大抽選会が行われました。



# 福島県農地・水・環境保全向上対策地域協議会

## 平成20年度 第2回 総会開催

福島県農地・水・環境保全向上対策地域協議会 平成20年度第2回総会が、7月18日、本会大会議室において会員60名の出席のもと、開催されました。

地域協議会渡部会長（本会専務理事）の挨拶の後議事に入り、事務局より交付金の交付状況等の報告がされました。

続いて協議事項として5項目の議案が審議され、全会一致で可決されました。



以上により、新たに共同活動39組織、営農活動42組織の採択が承認されました。これらの組織の皆様には、本対策を積極的に活動していただきまして、農地・農業用水等の資源の適切な保全管理や農村環境の保全等、地域の環境向上に努めて下さいますようお願い致します。

### ●決議事項

- ・議案第1号 農地・水・環境保全向上対策共同活動支援交付金の平成20年度第2回採択について
- ・議案第2号 農地・水・環境保全向上対策営農活動支援交付金の平成20年度第2回採択について
- ・議案第3号 農地・水・環境保全向上対策共同活動支援交付金の変更について
- ・議案第4号 農地・水・環境保全向上対策営農活動支援交付金の変更について
- ・議案第5号 平成20年度推進交付金に係る事業計画の変更について

地域協議会事務局からのお知らせ  
～活動計画書を再確認してください～

### 【協定の対象となる資源と活動計画は合っていますか？】

各組織の活動計画には「協定の対象となる資源」として開水路・パイプライン・ため池・農道の延長や箇所数が記載されていますが、これに記載された農業施設については、地域活動指針チェック表の「施設の有無」に「○」が付き、該当する活動を実施するようになります。

例えば、対象となる資源に「ため池」があるのにチェック表の「施設の有無」や「対象となる活動」に「○」がついていないケースがありました。また、この逆のケースがありました。

また、「対象となる活動」については現地に施設があれば、必ず「○」が付きますのでご注意ください。

### 【パイプラインの取り扱いについて】

「揚水機の送水管」をパイプラインとして「対象となる資源」とした場合は、「地域活動指針チェック表のパイプラインに「○」が付き、活動を行わなければなりませんのでご注意願います。

送水管の延長が短い場合は、パイプラインではなく開水路の附帯施設として共同活動を行っても良いので、該当する組織は市町村に取り扱いをご相談願います。

## 福島県土地改良団体職員連絡協議会 永年勤続表彰及び会員研修会を開催

福島県土地改良団体職員連絡協議会第32回総会及び業務研修会は、7月24日午後1時30分より、北塩原村の裏磐梯猫魔ホテルにおいて会員79名が出席して開催されました。

総会は、石神正雄会長（東根堰土地改良区事務局長）の挨拶後、30年勤続者17名、20年勤続者11名、10年勤続者5名へ表彰状など贈呈を行いました。

表彰式終了後、会津農林事務所長、本会専務理事よりそれぞれご挨拶をいただき議事に入りました。

議事は、水土里ネット会津中央の柳橋常美氏が議長に選任され提出議案すべてについて審議され、原案のとおり承認・決定されました。

総会後は、業務研修会が開催され、福島県農林水産部農村計画課主査、紺野保幸氏より「土地改良賦課滞納について」、水土里ネット福島農地建設課課長補佐、曳地誠氏より「水利権更新の実務について」、農地建設課長、渡辺隆氏より「農業用水水源地域保全対策事業について」、それぞれ講演をいただきました。

翌日は、猪苗代町役場農林課農林業務主査、木下実氏を講師に招き、猪苗代町の堆肥製造施設を視察しました。



永年勤続表彰者の皆様



現地視察の様子

# 「農地・水・環境保全の水質モニタリング調査について」

## ～学校教育との連携（農村環境向上活動）～

9月3日喜多方市塩川町「西鎧召地域保全委員会」において、農地・水・環境保全向上対策事業の水質モニタリング調査とお米や農業の大切さについての勉強会を実施しました。

水土里ネット福島企画指導課の富田、渡辺豊両名が講師となり、喜多方市立堂島小学校5年生14名が参加し、小学校前を流れる用水路の水を採取し、pH（水素イオン濃度）、COD（化学的酸素要求量）、DO（溶存酸素量）、透視度等について調査しましたが、今回は第2回目でもあり、生徒達に戸惑う様子もなく慣れた手つきで調査を楽しみながら実施しました。

また、引き続き行われた室内学習では、地域農業の現状やお米・田んぼの果たす多面的機能等についてクイズ形式で実際に問題を解いてもらいました。授業で勉強している水の大切さや食料自給率、また米の収穫量の問題になると興味深々で、最後の自己採点時には皆クライマックスに達しておりました。

平成19年度については、全県594地区のうち57地区からの委託を受け水質モニタリング調査を実施して参りました。

～本事業を通して～

地元農家の方々との交流も増え、コミュニケーションの大切さを肌で感じました。

地域の活動組織の方々と一緒に水質に対する興味を高めてもらうとともに、水の大切さについて理解を深めていただくために、本活動に積極的に取組んでいきたいと考えておりますので、今後ともご支援ご協力をお願いします。

**【問題例】チャレンジしてみてください。今回ちなみに7問正解が5名おりました**

- |                      |   |
|----------------------|---|
| 1. 日本の水路の長さは？        | ①東京から大阪 ②東京からニューヨーク ③地球10周 ④地球から太陽                |
| 2. 水路の水の働きについて       | ①生き物と棲み家 ②火事の火を消す ③雪を溶かして流す ④安全に遊ぶための水            |
| 3. お米の栄養化について        | ①骨や肉を作る ②体の調子を整える ③体を動かすもと ④背が伸びるもと               |
| 4. お米が優れている点について     | ①太りにくい ②あまりかまなくて良い ③栄養バランス良い ④他のもの食べなくても良い        |
| 5. 農家の人口の推移（40年前と比較） | ①約2倍 ②約4倍 ③約1／2 ④約1／4                             |
| 6. 日本の田んぼの面積（琵琶湖の何倍） | ①約2倍 ②約4倍 ③約20倍 ④約40倍                             |
| 7. お米はいつから作られたか？     | ①約200年前（江戸） ②約500年前（室町） ③約1000年前（平安） ④約3000年前（縄文） |
| 8. 日本の食料自給率          | ①約40% ②約60% ③約80% ④100%                           |
| 9. お米がたくさんとれる都道府県は？  | ①北海道 ②秋田県 ③新潟県 ④大分県                               |
| 10. お米のたくさんとれる国は？    | ①アメリカ ②インドネシア ③中国 ④日本                             |



喜多方市立堂島小学校前：用水路で水質モニタリング調査を実施



3班に別れてpH試験紙で調査を行っている様子



透視度計を用いて水の透明度を測定している様子



生徒達に説明をしている様子



水や農業について説明している様子



真剣に聞き入る子供たち

## 農地情報共有化に係る方部別説明会開催

福島県及び福島県農業会議主催による「農地情報共有化に係る方部別説明会」を三方部で開催しました。

- 中通り 9月2日(火) 福島県男女共生センター（二本松市）  
会津 9月5日(金) NOSA I 会津（湯川村）  
浜通り 9月9日(火) 富岡町文化交流センター「学びの森」（富岡町）

東北農政局より農地情報の共有化についての説明の後、質疑応答を行い参加者から数多くの質問が出ました。

次に、本会より情報共有システムデモンストレーションを行い、水土里ネット情報システム（地理情報）、航空写真（オルソ画像データー）、地積図（公図・字限図）のデジタル化と情報入力の整備、航空写真と地積図との重ね図面、農業施設の位置状況（施設台帳）等をスライドで説明しました。

また、デジタル化した地図と調書をG I Sでリンク（突合・連結）させることにより、データの地図上への表示・検索集計・情報毎の図面作成がコンピュータ上で容易に、迅速に対応する様子を実演しました。

更に活用法として、農業施設の施設情報の管理台帳として、施設の維持管理に向けて、農地の集積状況を把握・識別できること等の事例を紹介しました。



説明会の様子



本会より事例紹介



筆区画



G I Sでリンク：オルソ+筆+地番

## 農業用水水源地域保全対策事業の取り組みについて 「第3回農業総合センターまつり」への出展

福島県農業総合センター主催により、9月6日(土)～7日(日)に郡山市日和田町の農業総合センターで、「第3回農業総合センターまつり」が開催され、本会は平成20年度より実施している「農業用水水源地域保全対策事業」をPRするため出展しました。

出展はたんぽの生きもの展の1コーナーをお借りし、「良質な農業用水の安定供給と国土保全並びに京都議定書森林吸収目標達成に向けて森林整備が不可欠であり、このため農業用水と水源林に係る理解を深めるPRを実施し、豊かな森林と穂の大地の係わりを理解していただく」ことを目的に、農業用水と水源林の係わりについてのパネル展示及びパンフレット・啓発グッズの配布活動をしました。

2日間とも大勢の来場者があり親子連れも多く、特に、準備したパンフレットは低学年用に作成したことから大変喜ばれ盛況でした。

今後、本事業を活用した啓蒙・啓発を積極的に実施してまいりますので、会員皆様のご要望がありましたら水土里ネット福島（農地建設課）までご連絡下さい。



## 東北農業農村整備推進協議会 要請活動を実施

東北農業農村整備推進協議会（会長飯野陽一郎：福島県土連会長）は、9月8日・9日東北地方の農業農村整備事業の推進及び平成21年度農業農村整備事業の予算確保を目的として佐藤昭郎参議院議員、農林水産省、東北農政局に対し下記事項について要請活動を行いました。

1. 生産基盤である農地の確保・有効利用の推進について
2. 活力ある農村地域づくりの推進について
3. 地域資源を活かした農村環境づくりについて
4. 国による基幹的な農業水利施設の計画的な整備について
5. 平成21年度農業農村整備関係予算の確保について



東北農政局へ要請活動（9月8日）



佐藤参議院議員へ要請活動（9月9日）



農林水産省へ要請活動（9月9日）

# 福島県土地改良団体職員連絡協議会 県外視察研修を実施

福島県土地改良団体職員連絡協議会では、平成20年9月11日・12日にかけて会員25名が出席し、新潟県内の西蒲原土地改良区及び亀田郷土地改良区へ先進地視察研修を実施しました。

## ○西蒲原土地改良区

(受益面積：19,492ha 組合員数：14,382名)

研修内容：土地改良施設の維持管理と補修について



研修風景



西蒲原中央管理所の視察



笹川工務課長挨拶

## ○亀田郷土地改良区

(受益面積：11,154ha 組合員数：4,834名)

研修内容：21世紀土地改良区創造運動について



参加者の皆さん



研修風景



五十嵐理事長挨拶

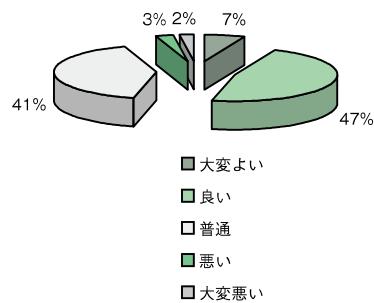
# 水土里ネット福島に対するアンケート調査結果

## ISO9001 顧客満足調査結果（2007年度）

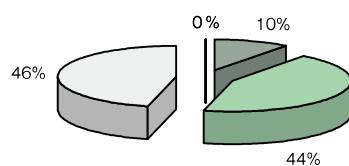
本会では、本会が実施するすべての業務に関してISO9001に基づき顧客満足の向上、技術力及び品質の向上、技術力及び品質の向上を図るためのマネジメントシステムによって業務を実施しております。

業務の着手から納品まで、手順に基づきプロセス監視を行っておりますが、不手際等によって皆様にご迷惑をおかけした場合には速やかに是正・改善を図るべく対処してまいりますので、今後ともご理解、ご協力をお願いします。

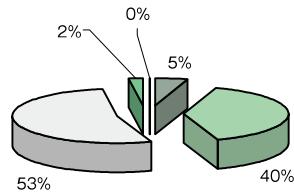
II. 成果品について（品質は？）



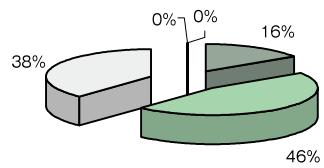
III. サービスについて (1)～(5)平均



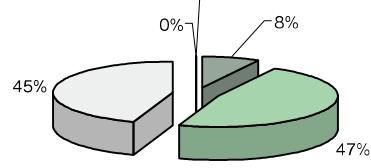
III(1) 企画提案の対応



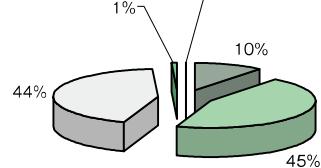
III(2) 相談（支援）対応



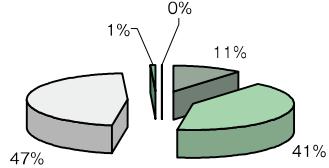
III(3) 情報提供の対応



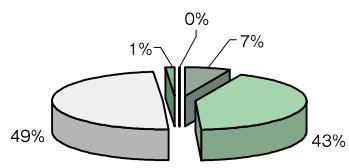
III(4) 研修（説明）会の対応



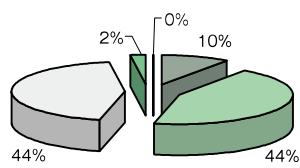
III(5) 審査対応（会検査）



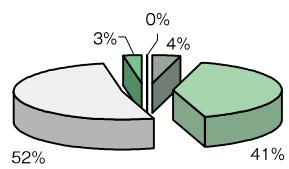
IV. 打合せについて (1)～(4)平均



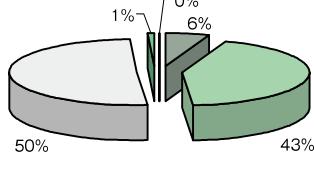
IV(1) 対応（スピード）



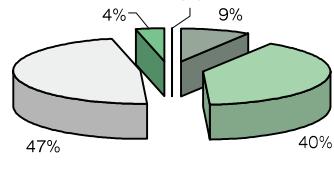
IV(2) 時期（タイミング）



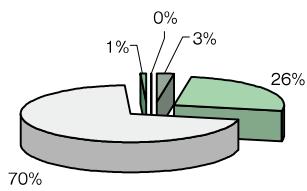
IV(3) 資料



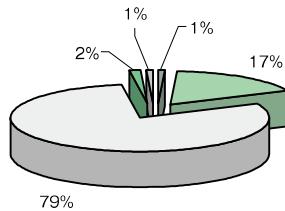
IV(4) 説明



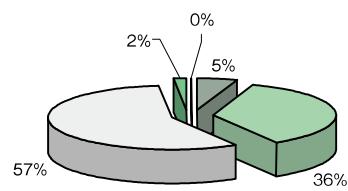
V. 納品について



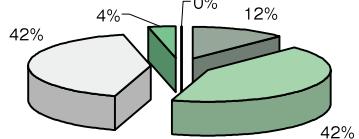
V(1) 工期遵守



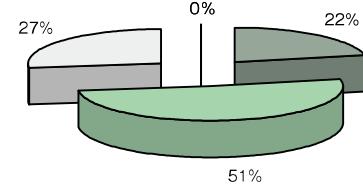
V(2) 説明



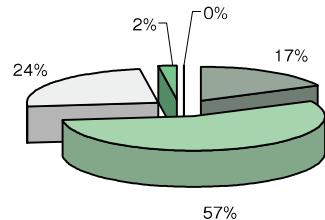
VI. 本会の担当者について



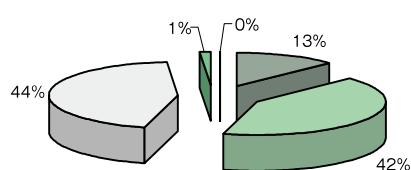
VI(1) 態度・マナー



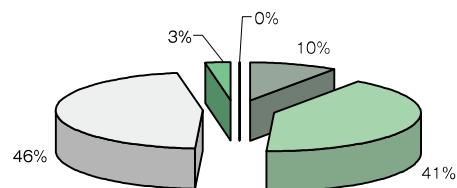
VI(2) 支援・協力



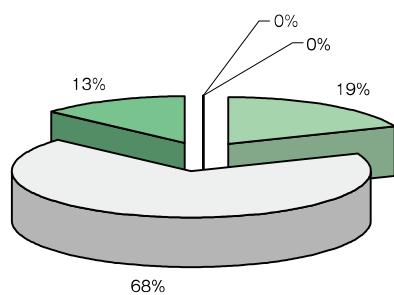
VI(3) 業務の正確度



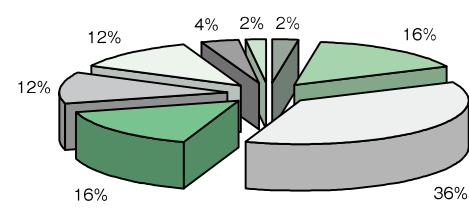
VI(4) 業務の速度



VII. 価格について



VIII. 今後の事業・制度について



- 生産基盤整備
- 土地改良区組織員當強化
- 土地改良施設管理支援
- 農地・水・環境保全向上対策
- 資源循環・環境保全対策
- 農村の総合的整備
- 農業集落排水整備
- その他

## 会員様からのご意見等について

(同様のご意見等について、対応は、勝手ながら一括にまとめさせて頂きました。)

ご意見等	本会の対応等
1. 設計全般へのご意見について (着手－打合せ－現地調査－ 設計・積算－内部検査－納品まで)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設計業務全般について、着手から納品まで、課内及び部内会議を通じて、職員の調整を図り、会員の皆様の要望に沿って、実施して参ります。</li> <li>・打合せについては、日程調整の上、適時適切に実施して参ります。説明内容については、わかりやすい表現に努めて参ります。不明な点やわかりにくい点があれば、ご遠慮なくご相談下さい。また、打ち合わせにおいては、業務工程表の作成、課内会議の徹底等で遅延のないように行って参ります。</li> <li>・設計においては、現場に沿ったものであることや、受益者・関係者の要望を踏まえることが大切です。従って、現地調査や要望の確認は、確実に実施して参ります。</li> <li>・成果品のチェックについては、ミス防止のため内部の検査検証体制を強化しております。万が一発生した場合、その対応は、会員様の要望に沿って対応して参ります。</li> <li>・積算システムの土木部との統一化については、農林土木用として国で開発しているものであり土木部のシステムとは歩掛・単価等で共通には成らないこともあり困難と思われます。したがいまして、研修会及び個別サポートを充実させ、担当者へのフォローを行なって参ります。</li> <li>・電子納品の対応については、対応可能ですので、ご相談下さい。</li> </ul>
2. 本会の運営等について ・賦課金について (徴収の意義、使途)	<p>賦課徵収の考え方については、以下の2点となります。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 会員等へのサービスが業務の根幹であるとした限定された業務であること。</li> <li>2. 事業整備の条件・環境等が異なっても、これまで培った土地改良全般の技術・情報を駆使し、良質で安定したサービスを提供していくこと。</li> </ol> <p><b>賦課金の使途</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業農村整備事業推進のための広報活動の実施</li> <li>・21世紀土地改良区創造運動の推進</li> <li>・土地改良関係団体の役職員の研修会・講習会の実施</li> <li>・農業土木技術者継続教育制度の推進</li> <li>・農業農村整備事業推進に関する政策提案及び要請活動</li> <li>・農業農村整備事業推進に係る農家負担軽減対策の拡充強化</li> <li>・農業関係各種行事に対する参加及び協力</li> <li>・農業農村整備事業の推進と事業効率化の拡大を図るために必要な調整及び研究</li> <li>・農業農村整備事業に係る法令及び諸制度改正等に関する調査及び研究</li> <li>・土地改良区の運営等に対する相談・指導・援助</li> </ul> <p>以上のような内容で、会員の皆様に賦課徵収をお願いしておりますので、内容をご理解していただき、今後も本会のご支援をよろしくお願いいたします。</p>
・相談について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種資料・図書等の問い合わせ等につきましては、内容の確認を行い、真摯に対応してまいりますので、なんなりとご相談ください。</li> </ul>

# 土 地 連 日 誌

月 日	行 事	開 催 場 所
6月	4日 要請活動（国会議員 農水省 他）	東京
	4日～5日 疏水ネットワーク第1回通常総会・疏水サミットin北海道2008	北海道・ロイトン札幌
	6日 土地連OB会総会	福島市・摺上亭大鳥
	9日～10日 21創造運動担当者会議	東京・砂防会館
	10日 全国農地集団化協議会第56回役員会及び総会・表彰式	東京・法曹会館
	13日 会津支部 農業農村整備事業講演会並びに懇話会	会津・ルネッサンス中ノ島
	13日 水・土保全強化対策管理指導専門指導員打合会	本会研修室
	17日～18日 東北農業農村整備協議会通常総会及び研修会	郡山市・熱海華の湯
	20日 メタボ対策（栄養・食事指導）講演会 (講師：福島市保健福祉センター)	本会会議室
	22日 稲岡「堆肥製造施設」堆肥の無償配布啓発普及	会津美里町
7月	24日 猪苗代町優良堆肥製造施設性能発注審査委員会	猪苗代町役場
	25日 平成20年度第1回監事会及び第1回理事会	本会役員室
	25日 50周年記念ラジオ対談録音（飯野会長）	ラジオ福島
	25日～26日 土地改良管理指導担当者会議	東京・砂防会館
	25日～27日 新規担当者研修会及び換地計画作成研修会	本会中会議室
	1日～2日 21創造運動大賞地方選考委員会及び意見交換会	仙台KKRホテル
	2日～3日 会津支部 水土里ネット事務局長等連絡協議会 平成20総会及び業務研修会	会津若松ワシントンホテル
	5日 50周年記念特別番組放送（飯野会長） 「水土里ネット福島のこれまで そしてこれから」	ラジオ福島
	9日 土地改良負担金総合償還対策担当者会議	東京・砂防会館
	14日 設立50周年記念式典及び祝賀会	福島市・ウエディングエルティ
8月	15日 全土連会長表彰選考委員会	本会中会議室
	24日～25日 福島県土地改良団体職員連絡協議会第32回総会及び研修会	裏磐梯猫魔ホテル
	30日～31日 第50回土地改良団体職員研修会	東京・全国都市会館
	31日～1日 北海道・東北ブロック土地改良換地関係訴訟検討会	秋田県社会福祉会館
	2日 太田 豊秋氏叙勲祝賀会	福島市・ホテル辰巳屋
	4日 梶木又三先生お別れの会	東京・虎ノ門パストラル
	6日～8日 農業集落排水施設管理技術研修会（北海道・東北ブロック）	岩手土連
	7日～8日 I S O内部監査員養成講習会	本会研修室
	7日 農業農村整備技術強化対策事業 第1回東北・北海道ブロック会議	KKRホテル仙台

(34) 土地改良だより

月 日	行 事	開 催 場 所
8月	7日 農業集落排水事業に関する市町村長との懇談会	本会中会議室
	19日 負担金総合償還審査委員会	本会中会議室
	19日～20日 東北・北海道土地連絡協議会事務主任者会議	宮城蔵王
	29日 水土里情報工程計画会議	仙台・東北農政局
9月	1日～5日 農地・水 中間指導確認（県中管内）	各市町村
	2日 猪苗代町土改区 全土連金賞受賞祝賀会	ホテルリストル猪苗代
	3日 全国土地連 50周年記念式典・祝賀会	東京・虎ノ門パストラル
	4日 都道府県土地連事務責任者会議	東京・全国都市会館
	5日～12日 農地・水 中間指導確認（相双管内）	各市町村
	8日 東北農業農村整備推進協議会要請活動・意見交換会	K K R ホテル仙台
	8日～17日 農地・水 中間指導確認（県北管内）	各市町村
	9日 東北農業農村整備推進協議会要請活動・意見交換会	東京・議員会館
	9日～19日 農地・水 中間指導確認（会津管内）	各市町村
	11日～12日 職員連絡協議会平成20年度視察研修	新潟県
	13日 猪俣 慧氏旭日双光章受章祝賀会	喜多方市
	16日 岩手県土地連 50周年記念式典	岩手県
	16日～17日 中国湖北省 職員研修	本会研修室
	17日～18日 農地・水 中間指導確認（南会津管内）	各市町村
	18日～26日 農地・水 中間指導確認（県南管内）	各市町村
	19日 各種団体要望聴取会（県民連合、自民県連）	県庁総務委員会室
	24日～25日 農地・水 中間指導確認（いわき管内）	各市町村
24日	農村・漁村 地域力発掘支援モデル事業担当者会議 (東北6県担当)	宮城土連
29日～30日	北海道土地連 創立50周年記念式典及び祝賀会	北海道・京王プラザホテル札幌
30日～1日	東北・北海道土地連事務責任者会議	北海道・札幌

# 森と木の 大切なはたらき

大切なはたらき

森は雨をきれいなお水にします。



降った雨は、森に蓄えられ  
少しづつ川に流します。  
そのほか土砂崩れなどの  
災害を防いでくれます。

水はこんな  
ふうにみんなに  
使われています

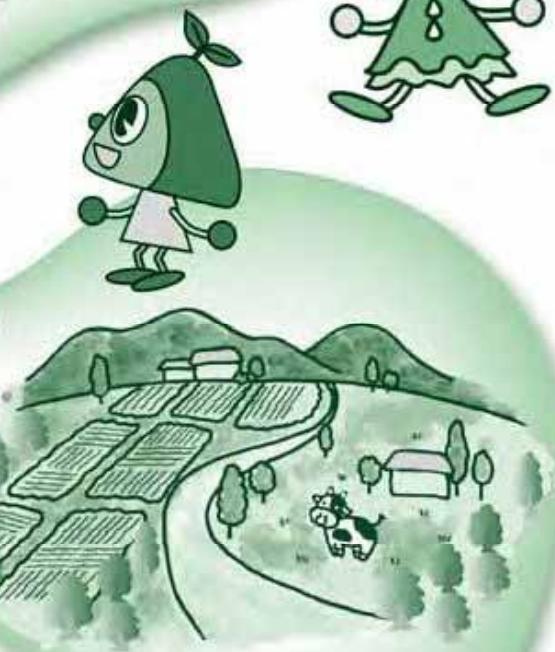


みんなの生活も  
森につながって  
いるんだね



森から来たきれいな水は  
農業や酪農に使われます。

お米や新鮮な野菜を育てたり  
健康な牛や豚などの命を  
ささえます。



きれいなお水で  
育られた食べ物が  
わたしたちの命を  
ささえます。

森からのお水は私たちの  
毎日の生活の中で  
たくさん使われています。

水のふるさとは  
日本です、みなさま  
森を大切に  
ほしょう、



水土里ネット福島  
福島県土地改良事業団体連合会

農業用水水源地域保全対策事業



県内の土地改良区ホームページをご紹介いたします。

- 安積疏水土地改良区
- 会津北部土地改良区
- 会津宮川土地改良区
- 請戸川土地改良区
- 愛谷堰土地改良区
- 雄国山麓土地改良区

<http://www.asakasosui.jp/>  
<http://www.aizuhokubu.or.jp/>  
<http://www.aizumiyakawa.jp/>  
<http://www.ukedogawa.jp/>  
<http://www8.plala.or.jp/aiya/>  
<http://www.akina.ne.jp/>

土地連の登録内容及び有資格者数

土地連の登録内容 (H 20.5.1 現在)

登録 内 容	登録年月日・登録番号
ISO9001:2000/JIS Q 9001:2000 マネジメントシステム登録	H19.2.23 登録証番号 JQA-QMA13143  
建設コンサルタント	H17.12.3 建17第7079号 農業土木部門
一級建築士事務所	H19.4.9 第11(904)1975号
計量証明事業登録	H7.7.3 第環34号
測量業者登録	H17.6.2 登録第(2)-26856号
浄化槽保守点検業者登録	H15.5.14 福島県知事登録第1353号
産業廃棄物処分業	H17.11.18 許可番号0720122234号
農業農村整備事業 発注者支援機関認定	H18.10.16 第0606号

各種有資格者数 (H 20.5.1 現在)

NO	資 格 名 称	資格人数
測量業者部門	1 測量士	9
	2 測量士補	32
建設コンサルタント部門	3 技術士（農業部門）	2
	4 技術士補（農業部門）	9
	5 技術士補（環境部門）	1
	6 R C C M（農業土木）	11
	7 R C C M（下水道）	2
建築コンサルタント部門	8 1級建築士	1
	9 2級建築士	1
計量証明事業部門	10 環境計量士	1
換地部門	11 土地改良換地士	12
	12 土地改良補償業務管理者	8
集落排水、維持管理部門	13 上級農業集落排水計画設計士	6
	14 農業集落排水計画設計士	1
	15 浄化槽技術管理者	22
	16 浄化槽管理士	23
各部門関連資格	17 土地改良専門技術者	3
	18 1級土木施工管理技士	7
	19 2級土木施工管理技士	3
	20 1級建築施工管理技士	1
	21 1級電気工事施工管理技士	1
	22 第二種電気工事士	1
	23 第三種電気主任技術者	2
	24 1級管工事施工管理技士	1
	25 2級管工事施工管理技士	4
	26 浄化槽設備士	9
	27 公害防止管理者	2

お知らせ：「農家のみなさんへ」の放送内容は、水土里ネット福島のホームページに掲載することとしました。

ホームページアドレス <http://www.midorinet-fukushima.jp> にて、引き続きご愛読くださるようお願い致します。

農業農村整備の調査測量設計・農業集落排水事業・換地業務・確定測量・その他土地改良事業のご相談は

 福島県土地改良事業団体連合会

〒960-8502 福島市南中央三丁目36番地